



第 210 回 例 会 1963.8.6 (火) 快晴

例 会 場 鶴岡市一日市町 ひ さ ご や (707番)

事 務 所 鶴岡市馬場町十日町口 商工会議所内 (1563番)

次 回 例 会 予 定

8月13日 (火) 卓話 月山について 草刈三郎氏
8月20日 (火) 卓話 金峯山と信仰について 松浦重雄氏

○ 卓 話

鶴岡市と大山町の合併について

鶴岡市長 足達兼一郎氏

○ 出 席 報 告

本 会 員 数 46名 欠 金井(勝)君
日 の 出 席 数 44名 席 者
出 席 出 席 率 95.83% 三井(賢)君

前 前 回 出 席 率 85.42% メ
回 の 修 正 出 席 数 40名 ー
出 席 修 正 出 席 率 89.58% ク
席 出 席 率 89.58% ツ
席 修 正 出 席 率 89.58% プ
三井(賢)君(酒田R.C)
吉 村 君(ク ク)

○ 司 会 池 内 会 長

○ ソ ン グ 奉仕の理想 リーダー 広瀬君

○ ゲ ス ト (今間君のお客)

庄内木工指導所長 上野喜一郎氏

○ ビ ジ タ ー

横 山 正 彦 君 (能代南R.C)
菅 原 利 郎 君 (酒田R.C)
高 野 豊 一 君 (酒田R.C)
斎 藤 正 三 郎 君 (上山R.C)

昭和36年8月鶴岡市が大山町に合併を申し入れて以来満2ケ年を経過し、去る7月29日鶴岡市、大山町の各議会で共々合併を決議し、来る9月1日を以つて正式に合併することになりました。

今回の合併については、地勢的にも経済的にも当然合併すべき状態であると認め乍らも、有利な条件のついていた合併促進法が時限法であり適用されなかつた事や、或いは農村都市として力の弱い鶴岡市には、他町村を特に引きつける魅力に欠けていること等が合併を困難にさせた因子であつたと思います。然し乍ら双方協議会や研究会、町民座談会など幾回となく開いて合併に関する詳細な検討を行ない、特に大山町の保守勢力の御努力が原動力となり、互いに信頼し誠意を以つて約束を実行して自治体の発展を図ることに決まつたのであります。

合併の条件については「市政と市民、特別号に細かに記載してあるので省略しますが、大山町が鶴岡市よりも秀れている面はそのまゝ存続し、鶴岡市より低い面は市並に上昇させること、大山町の経済力が低下しないよう行政面で配慮すること、又合併による期待事項として消防分署の設置や衛生事情の改善、高館大山公園の整備、工場公共施設の誘致、学校の改築などを条件としてあります。それでは大山町への出資が多くなり、鶴岡市の財政を圧迫するのではないかの疑問が論議されましようが、市当局の詳細な調査によれば合併による市の収入増加は300万円位となり、更に合

併による冗費の節減が1,500万円から2,000万円位見込めるので、1,500万円位を大山地区の投資事業に振りむけても鶴岡市の犠牲には絶対にならないと確信して居ります。

要は大山町民の1人1人が1日も早く鶴岡市民としての自覚と誇りを持つて頂き、吾々共々大鶴岡市の発展のため努力して頂きたいと念じて居ります。

〇一人一筆

能率とは

三井賢二

連日の猛暑で日常生活のすべての面で能率の悪い今日この頃です。では能率とは何か。いさゝか私見を述べてみようと思います。

能率とは目的と手段とが釣り合っている状態であり、例えば1tonの荷を運搬するのに1ton積の車を用いることであり、又1ton積の車を用いるには1tonの荷を積載することである。この場合1tonの荷を運搬することは目的であり、1ton積の車は手段である。

能率的でない状態即ち目的と手段とが釣り合っていない状態を非能率と云う。これには2つの場合がある。達せんとする目的に対して用いんとする手段が過大なる時、例えば $\frac{1}{2}$ tonの荷を運搬する目的に対して1ton積の車を用いるのがそれである。1ton積の車に $\frac{1}{2}$ tonしか積載しないのであるから車の力の半分は役にたつて居ない。この様な状態を名付けて「無駄」と云う。

又達せんとする目的に対して用いんとする手段が過少な場合がある。例えば2tonの荷を運搬する目的に対して1ton積の車を用いるが如きである。1ton積の車に2tonの荷を積載するのであるから車の力より荷の方が重すぎる。この様な状態を「無理」と云う。

世の中には目的と手段との釣り合っていないことが多い。即ち能率の状態は少なく、非能率の状態が多い。

換言すれば、世の中には無駄と無理が少なくない。同じ事柄も立場を変えて見る時は、或いは無駄となり或いは無理となる。例えば食い過ぎは栄養から云うと食物の無駄であり、育腸の能力から云うと無理である。世の中の凡ての現象が能率的でないと云うことは、凡てのことに、無駄あり無理ありと云うことである。この様に性質の相反する無理と無駄が同時に存在し、或いは相ついで発生することを「むら」と云う。世の中に多少の「むら」がある事は致し方ない事であるが、あまりにも「むら」が多くなると自然にこの「むら」を除こうとする。戦争などは、社会的、国家的、国際的關係に於ける基だしき「むら」の訂正運動と見るこ

とが出来る。「むら」は目的と手段の不釣り合いから生ずるものであるから、天然現象の変化即ち春夏秋冬四季の変化の如きは「むら」ではなく、自然のうつりかわりである。能率を上げるとは大いに奮斗努力することであると考えて居る人が多い。大いに奮斗努力して能率を上げて貰い度い等と云う云いかたをする。奮斗努力は大いに必要なことであるが、能率とは奮斗努力することではない。目的に対しては手段の目安を、手段に対しては目的の目安をきめる事であつて、この目安が出来た時、そこに到着する為に奮斗努力を必要とするのである。奮斗努力は目安がきまつて居る時にその真価を発揮するのであつて、目安のない奮斗努力には値打ちがない。却つて無駄と無理に陥る危険がある。

又能率を上げるとは、仕事を多くすることであると考えて居る人がある。質を犠牲にしても分量や出来高を増すことが能率を上げることであるとする。製造工場に於いて、能率は上つたが不良品は多くなつたと云う様な云い方をする場合は、分量だけの事を考えて居るのである。又不景気で物が売れない時には、能率をさげる方の研究が必要だ等と云う人もある。この場合にも能率とは仕事の量の多い事であると考えて居るのである。売れない時は、造る方もそれに準じて釣り合いをとつて行くことが能率なのである。能率とは分量だけの事ではない。質についても量についても目的と手段との間に釣り合いをとつて行くことである。

又能率とは必要な時だけ一時的に成績を上げることであると考えて居る人がある。若い時には多少の無理がきくのに任せて乱暴な生活をしていると晩年になって健康を害する。無論非常時には大いに無理をしてまで力を出さなければならない。それ丈に日常生活には無駄と無理をせず、余力を養つて置かなければならない。例え一時的に大いに成績を上げてでも忽ちがっかりしてしまう様な「むら」のある生活は能率的なやり方ではない。以上能率についていさゝか私見を述べて見ましたが、自身8月の猛暑最中に誕生した者故、日常生活の凡ての面で非能率なる事が多く、大いに反省して居ります。

〇 幹事報告は次号に掲載致します。

〇本日の献立

甘鯛の味噌漬、とんかつ

味噌汁(豆腐、茗荷) 茄子漬、ビール